

番組組

一管

草之音取

(ソウノネトリ)

能楽一噌流笛方

十四世宗家

一噌庸二

地唄

石橋

立方

唄・三絃

箏

出雲 蓉

川瀬露秋
大坪正秋

道成寺物さまぎさま

芸能史研究家

田中英機

地唄

新娘道成寺

唄・三絃

胡弓

藤井泰和

川瀬露秋

地唄

古道成寺

立方

唄・三絃

出雲 蓉

藤井泰和



福田千恵先生画 古道成寺



紀州・道成寺 念佛堂前仮設舞台



浅草・東本願寺本堂

舞、いまひとたびの

おやめ、おやめ

本日はご来場賜り、まことにありがとうございます。

幼少より初代西崎緑師の手ほどきをうけ、高校米国留学の後、自国の伝統の心をさらに深く学びたいと、地唄舞神崎流宗家・神崎ひで師に入門。しかし、西崎緑師の稽古場に出入りする数多くの外国人芸術家たちを眺めながら、ひそかに、国際的に活躍できるような舞踊家になりたいという夢を持ち続けていました。

昭和五十九(一九八四)年、文化庁が伝統芸能の世界からも芸術家在外研修員を……と初めて発表した時、私は早速応募し、日舞界から初の研修生に選ばれました。研修先はウィーン国立音楽大学・マックス・ラインハルトセミナー。ヨーロッパ屈指のバントマイム・アーティスト、サミー・モルショウ教授のもとで、ヨーロッパ・マイムを学び、研修させていただきました。

地唄舞や日舞のなかには、ニュートラルな着付で様々な役を演じわける「素踊り」というジャンルがあります。これは、レオタード一枚で老若男女を表現するマイムと同じ発想です。ただ、マイムでは「リズム・ブレイク」という呼吸法を駆使し、瞬時に役から役へと変化させなければなりません。このスピード感とビジュアルの身体の違い方を舞の中に取り込めば、舞踊表現に一層の説得力と表現美が生まれるであろうことを確信し、それを「舞夢」と命名、私の振付技法として磨いてまいりました。

またヨーロッパ・マイムの中には動物の表現も数多あり、その多くは「食べるリズム」で動きが決まり、その動きをデフォルメした「動物人間」という手法があります(例えばサル人間、孔雀人間とか)。わたしたちの地唄舞のなかに、こういったテクニクを生かせる曲はごく限られています。コミカルな「おどけもの」やネズミ・狸などの動物をテーマにしたものはリズム・ブレイクにはもってこいですが、一方、舞の中にいわゆる「女」の心理心情描写を生かすことは、まず出来ません。

長い間、私の中で悶々としていたものが、地唄「古道成寺」に出会って、覚醒しました!!

「この曲を練り上げれば、自分のライフワークにできる」と。「古道成寺」なら、まなごの莊司、娘(少女・成女・蛇体)、山伏、語り部の老女と六役変わり。舞夢の手法も「ベビ人間」でよく生かせると思ったのです。

平成三十一(二〇一九)年の初演以来、毎年のように舞わせていただいて昨年で十回目を迎えました。その間、台東区主催事業で、浅草・東本願寺本堂で舞わせていただいたり、紀州・道成寺の、主催事業「桜・舞・道成寺」特別公演にお招きいただいたり……、さらに、日本画の芸術院会員・福田千恵先生のお目に止まって日展に作品「古道成寺」で舞姿を出展していただいたり……。

しかしながら、難曲中の難曲と言われるだけあって一回舞うことに奥行が深くなり、暗い闇の中に取り残されてしまうのです。立方である私の身体は年を追って衰え、思いばかりが先走り、烈しく頭の中で駆けめぐります。これは由々しき問題、先延ばしにすればするほど困難が大きくなる。「いまひとたび、舞ってみるしかない!」そう思い立ちましたのが、本日の公演でございます。

私一人の思いばかりではございません。福田千恵先生、遠くから見守って下さっているマイムの師、サミー・モルショウ教授、そして演出をはじめ舞台スタッフの方々、みなさまの熱い思いを背に感じながら、初めてこの鉄仙会の能舞台に立たせていただきます。

この舞台のことは、私の「古道成寺」初演以来の歌三絃方、藤井泰和先生からもよくうかがいました。その空間で一緒にできる幸いを改めて感謝申し上げます。

皆さまには酷暑のみぎり、わざわざお運びいただき、お目まだるい舞をお見せいたしますこと、真にじくじたることにはございますが、なにとぞ最後までご高覧賜れば幸いでございます。

本日はありがとうございました。